

II 普及指導等

1 水産業改良普及事業

漁業現場において漁業技術、漁獲物の付加価値向上、地域活動や漁業経営の改善等について直接漁業者団体や漁業者個人に指導を行うもの。特に、震災からの復興を成し遂げるためには、浜の現場に最も精通した水産業普及指導員が直接的に漁業者の活動を支援することが必須であることから、各水産漁港部普及指導員と連携し、効果的に普及事業を展開していく。また、試験研究部門と連携し、新たな試験研究成果の普及指導を実施し生産技術の向上を図るもの。

(1) 水産業普及指導員の配置

県内全域を担当する普及指導員を水産技術総合センター及び気仙沼水産試験場にそれぞれ2名ずつ、各地区を担当する普及指導員を気仙沼・東部・仙台の各地方振興事務所水産漁港部に計10名、普及関連事業予算関係業務や国等との連絡調整・後継者対策等を担当する普及指導員を水産業振興課に1名配置し、合計15名の水産業普及指導員を配置している。このうち、水産技術総合センター及び気仙沼水産試験場には、先進的な漁業者の相談窓口となり、普及指導員の総括・指導、普及と研究等の連携のために、水産業革新支援専門員をそれぞれ1名ずつ配置している。

なお、各地区担当普及指導員は、水産技術総合センター兼務発令としている。

(2) 活動実績等

①普及活動事業

活動内容	概要	備考
養殖通報等の発行		
ノリ	38回	水技セ
カキ（種がき）	10回	水技セ
ホヤ	6回	気水試
ワカメ	13回	気水試
ホタテガイ	12回	気水試
カキ天然採苗に係る浮遊幼生調査・情報提供		
気仙沼湾	5回	気水試
志津川湾	5回	気水試
技術指導		
アカガイ中間育成・放流		
渡波漁船	3回	
仙南4支所	5回	
ワカメ陸上採苗		
十三浜	13回	水技セ
牡鹿	13回	
マガキ天然採苗（長面）	6回	水技セ
ホタテガイ天然採苗（十三浜、女川）	8回	水技セ
ダルス人工採苗・養殖		
雄勝	6回	水技セ
牡鹿	5回	
七ヶ浜	7回	
アカモク種苗生産・養殖試験		
十三浜	3回	

ワカメ採苗・育苗	階上地区	気水試（種苗生産棟オープンラボ）
マボヤ人工採苗	唐桑地区、大谷本吉地区 歌津地区、戸倉地区	気水試（戸倉地区は種苗生産棟オープンラボ）
タオヤギソウ採苗・養殖	松岩地区	気水試
ヒジキ人工採苗	志津川地区	気水試
6次産業化支援	歌津地区	気水試
東日本大震災に係る水産関係調査報告会 浜と水試の情報交換会	1回	「9 技術指導・普及、研修会、視察・見学者受入等」の「(1) 技術指導・普及、研修会の実績」参照

②普及指導員研修等

年月日	会議等の名称	出席者氏名	開催場所	内容
R1.11.21 ～11.22	青函水産試験研究交流会議 (ホタテ部会)	齋藤憲次郎 (気水試)	青森県むつ市	ホタテガイ産地の試験研究機関及び普及指導員が、ホタテガイ養殖の現状及び最新の試験・研究結果について情報交換
R2.2.6 ～2.7	令和元年度水産業普及指導員研修会（第2回）	齋藤憲次郎 (気水試)	東京都	水産業普及指導事業の推進と普及指導員の資質向上を図るため、国内漁業のICT化に関する意見交換

2 沿岸漁業担い手活動支援事業

本県水産業の本格的な復興を成し遂げるためには各浜の中核となる担い手自らが、地域の牽引役として、新たな技術や考えを取り入れ、漁業の再生に取り組む必要がある。また、震災により漁業就業者は減少しており、新たな担い手となる漁業就業者の確保や育成が急務である。そこで、水産業普及指導員が担い手団体の活動や新規就業者の確保などを総合的に支援し、復興を担う漁業者の育成を推進する。

(1) 活動実績等

①担い手団体の活動支援

会議等の名称	回数等	備考
宮城県漁業協同組合関係 青年部関係		水技セ・気水試
宮城県漁協青年部 役員会	2名×1回 1名×1回	
総会	2名×1回	
水産青年フォーラム	5名×1回	
全国漁青連東北ブ ック会議	2名×1回	
石巻総合支所支部		水技セ
総会	2名×1回	
役員会	1名×2回	
鳴瀬支所青年部		水技セ
総会	1名×1回	
七ヶ浜支所青年研究会		水技セ
総会	2名×1回	
十三浜支所青年部		水技セ
総会	1名×1回	
気仙沼支所支部 役員会	1名×1回	気水試

女性部関係	総会	1名×1回	気水試
	歌津支所青年部	1名×1回	気水試
	宮城県漁協女性部総会	2名×1回	水技セ・気水試
	北部地区漁協女性部連絡協議会総会	1名×1回	気水試
	宮城県漁業士会関係	県漁業士会 役員会	2名×1回 1名×1回
	総会	1名×1回	
	南部支部		水技セ
	総会	1名×1回	
	中部支部		水技セ
	総会	1名×1回	
	北部支部		
	役員会	1名×2回	気水試
	総会	1名×1回	気水試
	岩手県漁業士会大船渡支部との交流会	1名×1回	気水試

②漁業に関する各種研修会等

年月日	会議等の名称	場所	内容	受講者数
R1.6.21	七ヶ浜支所青年研究会研修会	七ヶ浜支所	ダルス養殖について	50
11.13	出前講座	万石浦小学校	地球温暖化と本県漁業への影響 ワカメ養殖について	47
12.17	海洋教育	荻浜中学校	宮城県の水産業とカキ養殖について	11
R2.1.30	ヒジキ養殖勉強会	志津川支所	大分県のヒジキ養殖等について	3
1.31	十三浜支所青年研究会報告会	十三浜支所	ワカメ人工採苗結果について	10

3 みやぎの漁業担い手確保育成支援事業

本県の沿岸漁業者数は、高齢化や後継者不足により減少の一途を辿っており、東日本大震災後は、この傾向は更に顕著となっている。このため、本県水産業の持続的な発展のためには、水産業の担い手となる後継者の育成、新規漁業就業者の確保が急務となっており、地域の水産業を担う若い世代の人材育成と定着を図ることが重要である。そこで、「みやぎ漁師カレッジ」において、新規就業希望者に対し、宮城の漁業に関する座学、宮城を代表する沿岸漁業の現場研修等を実施した。

(1) 活動実績等

年月日	会議等の名称	場所	内容	受講者数
R1.6.3 ～12.20	みやぎ漁師カレッジ 長期研修	座学：女川町まちなか交流館 現地研修：石巻市、女川町等	座学：宮城の水産業の概要、養殖業について、水産関係諸制度、ロープワーク等 現場研修：ノリ・カキ・ワカメ・ギンザケ、定置網等	8
8.5 ～8.9	みやぎ漁師カレッジ 第1回短期研修	座学：宮城県水産技術総合センター 現地研修：石巻市等	座学：宮城の水産業の概要、養殖業について、ロープワーク等 現場研修：ホヤ・ホタテ養殖体験、大型定置網・種苗生産施設見学等	6
10.21 ～10.25	みやぎ漁師カレッジ 第2回短期研修	座学：塩釜市魚市場 現地研修：松島町等	座学：宮城の水産業の概要、養殖業について等 現場研修：カキ養殖・刺網漁船・定置網網興し体験等	4

4 社会実装委託事業（広報およびオープンラボの活用）

水産技術総合センターは、農林水産技術会議事務局委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」における宮城県漁業・漁村型実証研究のうち、貝類養殖業（カキ）、サケ科魚類養殖業（ギンザケ）、水産加工業に関する課題に参加している。これらの大規模実証研究に携わる多様な研究機関が協同効果を最大限発揮し、かつ効率的な研究実証が可能となるように先端技術に係る効果的な展示を行うとともに、開放型研究拠点（オープンラボ）の整備・運営を行った。また、各種行事等における展示等に必要なポスターの作成等を行った。

（1）活動実績等

①行事

年月日	行事名	場所	関係する課題、内容等
R1.7.15	サイエンスデイ 2019	東北大学	貝類養殖業（殻付きカキ） サケ科魚類養殖業（ギンザケ） 水産加工業（ツノナシオキアミ）
8.21 ~8.23	2019 ジャパン・インターナショナル・シーフードショー	東京都 東京ビッグサイト	貝類養殖業（殻付きカキ）
9.6	令和元年度気仙沼水産試験場 浜と水試の情報交換会	気仙沼市 気仙沼水産試験場	磯焼け対策マニュアルについて 他 4 題
9.11	令和元年度宮城県水産技術総合セ ンター試験研究成果発表会	石巻市内	アサリ資源増殖 地球温暖化関係
10.19 ~10.20	みやぎまるごとフェスティバル 2019	仙台市 勾当台公園	貝類養殖業（殻付きカキ） サケ科魚類養殖業（ギンザケ） 水産加工業（ツノナシオキアミ）
11.19 ~11.21	アグリビジネス創出フェア 2019	東京都 東京ビッグサイト	貝類養殖業（殻付きカキ） 水産加工業（ツノナシオキアミ）
R2.2.19 ~2.20	第 17 回シーフードショー大阪	大阪府 ATC ホール	貝類養殖業（殻付きカキ）

②オープンラボの利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用 人数	0	1	64	67	6	86	0	0	33	8	4	6	275

5 水産都市活力強化対策支援事業

（1） 「みやぎ水産の日」を核とした PR 活動

水産加工公開実験棟への来訪者に対し、「みやぎ水産の日」の PR 資料を配布した。

（2） 復興フード見本市による情報収集及び情報発信

令和 2 年 1 月 22 日に開催された復興フード見本市で、石巻及び塩竈地区の水産加工品について情報収集を行うと共に、出展している水産加工企業に水産加工公開実験棟の PR をした。

（3） FOOMAJAPAN による情報収集及び情報発信

令和元年 7 月 9 日～12 日に開催された FOOMAJAPAN2019 で、各出展者から加工機器及び加工技術に関する情報収集を行い、公開実験棟を利用する企業へ情報を発信した。

6 「新・みやぎ・シー・メール」による情報発信

「新・みやぎ・シー・メール」で第20号～31号を発行し、水産技術総合センターのホームページで公開した (<https://www.pref.miyagi.jp/site/gaiyou/sea-mail.html>)。